

## 『トンネルをぬけて』

島根県松江市  
持田少年剣道倶楽部  
小学6年生 白根 直哉

「自分に勝つ」1年生の時「先生はカッコいいことを言うなあ。」と思い、ずっと自分に問い続けてきた言葉です。

ところが、ぼくの「自分に勝つ」は、うわべだけ、かっこうだけで、本当はどういうことなのかわかっていませんでした。

1年生から剣道をしていたぼくは、早く入部したので、それなりに勝つこともできました。ところが高学年になると”それなり”で通用するはずがありません。後から入部してきた友達は、どんどん強くなっていつの間にかぼくをこえていました。これがトンネルの入口です。

5年生の1年間は、ぼくにとってみじめでつらい1年間でした。どうしてもどうしても勝てない。大会に出ても初戦負け。あせる。どんどん落ちこむ。そのうち「どうせ運動は、得意じゃないしな。」とか「本当は、剣道はむいてないかもしれん。」と気持ちまで逃げて行くようにもなりました。

5年生最後の県外での大きな大会にむけ、秋になると選手の発表がありました。ぼくの名前は、そこにありませんでした。「やっぱり…」と思っても、それでもショックで帰りの車の中で泣いてしまいました。

そんなぼくに母は「のびてる。のびてる。」と調子よく言うので「なにがだよ。」とついすねてしまいました。でもこういう時こそ人間の根っこをのぼす。根っことは、つらい事があってもたえる。乗り越える。根性だ。と話してくれて、ぼくはずっと弱い心になっていたことに気が付きました。その日からスランプと言いつづけてきたことをやめ、これが今の實力だとみとめました。

そして、もう一度強い気持ちになってクラブの練習もし、家での練習ももつとがんばろうと決めました。

がんばるには、今の練習では進歩がありません。二倍やってやっとなんと人といっしょ。今の自分をこえるには、三倍の努力をするしかない。そして続ける。父にこの事を話し、朝練をお願いしました。早朝1時間、素ぶりや打ちこみなど寒くても雨でも雪でもやり続けました。くつはボロボロになって底に穴があきました。冬の朝は、まだ真夜中みたいで星がとてもきれいだったことは、忘れられません。父が仕事でいない時は、母や家族みんなが支えてはげましてくれました。

そんな時期に一番うれしかったことは、先生が「直哉はどうしてますか。」と家に来て下さったことです。ちょうど出かけていたぼくは、それを聞くとうれしくて

うれしくて「10分でも20分でもいいので教えてください。」と竹刀を持って家まで追いかけて行きました。ますます元気が出てきました。

今年の3月、ぼくは県の個人戦で優勝することができました。“努力は必ずむくわれる”とこの時感じました。一生懸命教えて下さった先生方、仲間、両親、みんなのおかげです。

また県の団体戦では、優勝旗を持ち帰ることができました。この大会の1ヶ月前先生は、優勝できる選手の過ごし方を話されました。

1. きびきびとした行動。
1. 大きな声で、返事とあいさつ。
1. よく気が付く。

3番目は特に難しく、ぼくに必要なことばかりです。これを紙に書き、部屋にはり、忘れないようにしました。今でもこれを大切にしています。

ぼくが剣道に教えてもらったことは、努力の大切さです。ある本に“努力できることが才能”とありました。これだと思いました。あの人に勝つ、この人に勝つではなく、まず弱い心の“自分に勝つ”ということがわかった気がします。長い長いトンネルだったけど、またこれからもあるかもしれないけど、勝っても負けても“努力できることが才能”と自分にいいきかせ、感謝の気持ちを忘れずにがんばります。